



「はやぶさ2」の挑戦をスーパーハイビジョンで映像化

～JAXAのリアルな数値データを、NHKの映像技術で3D・CGに～

宇宙航空研究開発機構（JAXA）と日本放送協会（NHK）は共同で、はやぶさ2の探査の様子を、現実の数値データに基づき、スーパーハイビジョン（SHV）で映像化する共同研究を進めています。

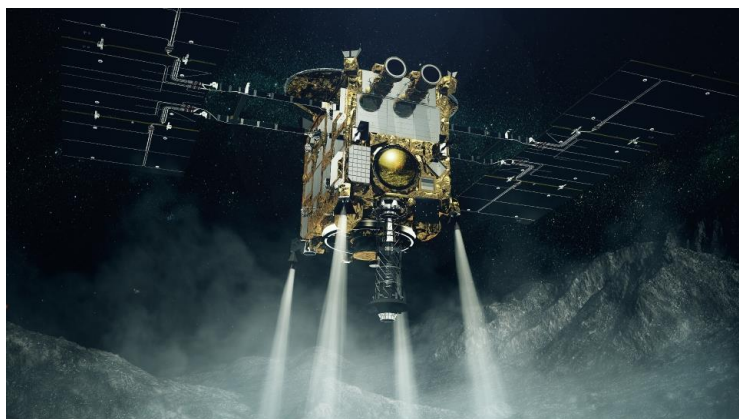
これは、日本が世界に誇る『「はやぶさ2」の宇宙科学技術』と、日本が世界の最先端をいく『スーパーハイビジョンの映像技術』を融合することで、数億キロ彼方の宇宙での探査の様子を、現実データに基づき、スーパーハイビジョンで可視化する試みです。

JAXAの探査機「はやぶさ2」は、今年6月小惑星リュウグウに到着し、10月には初着陸が計画されています。この時、「はやぶさ2」から地球に送られるデータは、探査機の飛行データ（姿勢や速度、位置座標）や小惑星の観測データ等まで多岐にわたります。「はやぶさ2」から届いたこれらのデータを統合し可視化することができれば、探査機「はやぶさ2」の宇宙空間での振る舞いを、あたかも目の前で見るとかのように映像で表現できます。実際の探査機の挙動をビジュアルで理解できることは探査機の管制に役立つものです。

NHKは30年以上にわたりCGなど映像技術の研究開発を行っています。リアルタイムCG技術や、現実のデータを映像化するためのプログラミング技術は、気象や災害報道などの現場で数多く活用されています。またスーパーハイビジョン開発で、超高精細映像の技術開発をけん引してきました。そこで、JAXAが探査機「はやぶさ2」からのデータを提供し、NHKが独自の映像技術を提供し、共同研究によって『SHVはやぶさ2可視化システム』を開発いたしました。

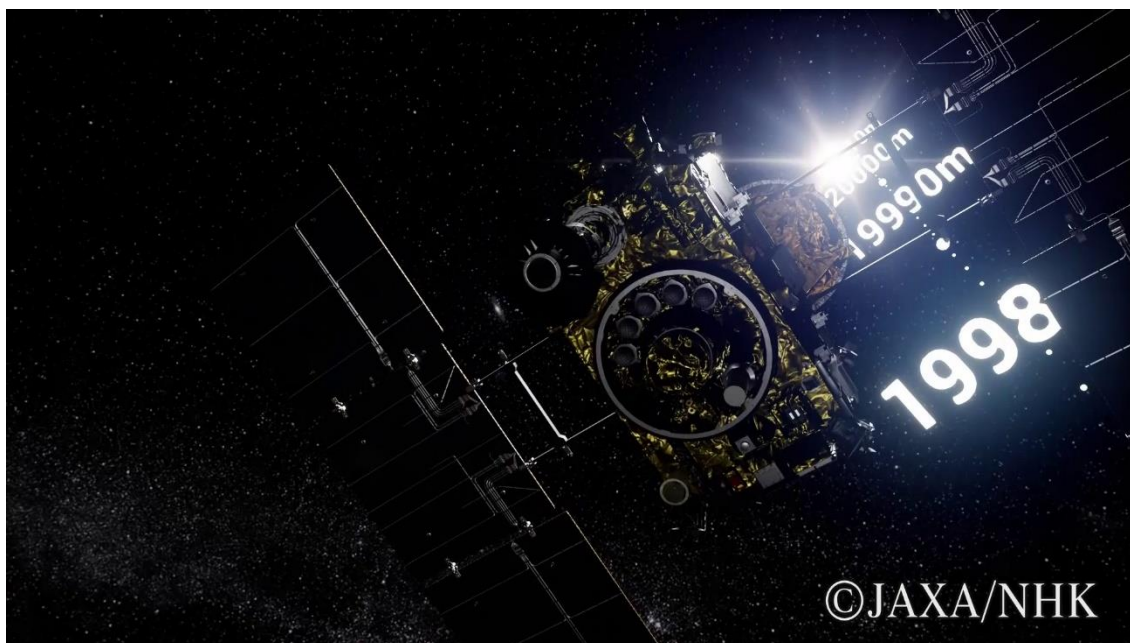
遙か数億キロ彼方での、「はやぶさ2」の挑戦。その小惑星への接近や着陸などミッションの一部始終を、現実データに基づく超リアルなスーパーハイビジョンCGで映像化すること。これにより、宇宙という遥かな世界の魅力を、より鮮やかに、より多くの人にお伝えします。

可視化された映像は、「NHKスペシャル」などの放送で紹介する予定です。放送の詳細は決まりしだいご案内いたします。

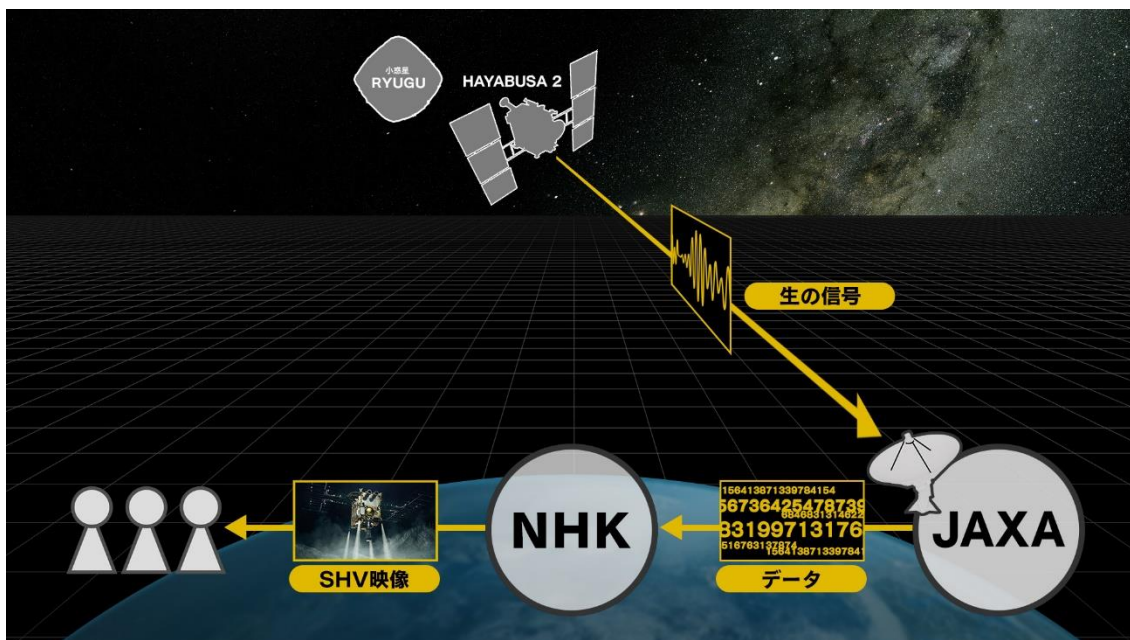


小惑星リュウグウに着陸する探査機「はやぶさ2」（イメージ）

(別紙資料)



降下中の「はやぶさ2」。飛行データから『SHV はやぶさ2 可視化システム』で映像化した。



「はやぶさ2」の可視化までの概念図

- 1, 「はやぶさ2」が、飛行データや観測データを、数億キロ彼方から、電波で送信。
- 2, JAXA が、受信した生の信号を解析し、データを整える。
- 3, NHK が、専用のプログラムでデータを映像化し、SHV映像で皆さまにお届けする。